



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／川上 壮 島根県飯南町教育委員会 派遣社会教育主事
安達美和子 大分県「協育」アドバイザーネット 事務局長

分科会の進め方

13:30~13:35

1 講座から生まれた「サンコアマルシェ」 ～子育て世代の方々が集う取組を通して～

13:35~14:05

水落 龍彦(福岡県筑後市) 筑後市中央公民館 元館長

小川 美弥(福岡県筑後市) 筑後市教育委員会社会教育課 主事

平成23年、公民館の事業である「好きなこと・得意なことを仕事にしよう！」がコンセプトである「おうち起業応援セミナー」から始まった「サンコアマルシェ」。「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも 学べるまちづくり」を目指して、日頃なかなか公民館に来館することの少ない若い世代の女性を、セミナーに受講生として呼び込み、起業者としてマルシェ(商店)の出店者に育て、新たに人が集う「サンコアマルシェ」を進めていくという取組。また、公民館と行政(商工観光課など)、青年会議所、民間企業など、外部機関と積極的に連携を図っている。

2 講座の成果を市政に活かす ～「協働による那覇のまちづくり憲章(案)」と市民の実践力～

14:10~14:40

饒波 正博(沖縄県那覇市) なは市民協議会 代表

平成21年度の「なはのまちを考える実践講座」に参加した市民は、1年をかけた学習の成果物として、まちと市民の「協働による那覇のまちづくり憲章(案)」(以下、「ルール案」)を作成した。ところが講座終了後、この「ルール案」が市政に反映される道筋はなかった。そこで、講座参加者と市職員有志は、市のイベントの企画・運営に積極的に参加、講座の報告書の配布、「ルール案」の横断幕掲示などの活動を継続し、平成27年4月、ついに那覇市は「ルール案」を公式なものとして発表するに至った。

ティータイム

14:40~15:05

3 夏祭り復活から地域活性化までの道のり ～We love MATSUO～

15:05~15:35

甲斐 裕崇(宮崎県椎葉村) 椎葉村青年団連絡協議会 松尾青年会 会長

椎葉村青年団連絡協議会53名のうち松尾地区会員は7名。台風災害と少子高齢化により夏祭りは10数年前に途絶えていたが、子どもたちの笑顔を見たい、松尾の良さをいろんな人にアピールしたいと、2年前から祭りの復活に取り組んだ。青年会とOB、公民館、平家大イチョウ太鼓が実行委員会を組織、婦人部、小学校PTA、建設会社が協力し、子どもからお年寄りまでが楽しめる祭りを創り上げた。祭りの成功が自分達の自信になり、普段は出会わない人達が集まることで地域の絆が深まった。

4 「まちづくり・いきいき成器の会」を掲げた住民総力の「じげ(地域)おこし」の展開 ～地区全体で取り組む「殿ダムウォーキング大会」の成功手法を中心に～

15:40~16:10

福田 悅子(鳥取県鳥取市) まちづくり・いきいき成器の会／鳥取市立成器地区公民館 館長

成器地区は「まちづくり・いきいき成器の会」を掲げ、住民総力による「じげ(地域)おこし」を展開。平成23年11月「殿ダム」完成に伴い、平成24年から「殿ダムウォーキング大会」を企画実施。特色は、地区自治会長、成器地区公民館、まちづくり・いきいき成器の会、PTAと連携して地区住民全員による「じげ(地域)おこし」である。大会での工夫は、記念バッジの配布、地元住民の「おもてなし隊」による豚汁とおにぎりの提供、地元産の新米、白ネギ、大根、コンニャクなどの特産品の抽選会と販売。その他、地区住民による保育園の運営、いきいき成器太鼓、地区運動会等も展開。「じげ(地域)おこし」の成功のポイントは住民総力の取組にある。